研究班番号【79】

日本の英語教育に足りていないものは何か
～日本と中国・韓国の違い～

英語班：川原三空

要約

本目的の研究は中国・韓国・日本のTOEFLの結果・各国の英語教育の特徴を比べ、日本の英語教育にかけているものを明らかにすることである。調査によって、TOEFLのどの技能においても日本のスコアが最も低く、中国・韓国はスピーキング、リスニングを重視した授業に比べ日本はリーディング、ライティングを重視した授業を行っていることが分かった。従って本研究では日本の英語教育には英語を実践する場が少ないため自分で英語を話す機会、他人の英語を聞く機会が生徒にあまり与えられておらず、その結果が日本の英語レベルの低さにつながっているということが結論づけられた。

1. はじめに

「なぜ英語教育を受けているのに英語を話す力、聞く力はつかないのか」という疑問が本研究のテーマを決めるきっかけとなった。私は小学校・中学校と英語教育を受けてきて文法力や書く力は身についたものの話す、聞く力についてはそこまでの向上が見られないと感じた。そこで、母国語が英語でないという共通点を持つ中国・韓国と日本の英語教育の特徴を比べることから、日本の英語教育にかけているものを導き出した。本研究が多くの人の目につくことで日本の英語教育内容の改善が行われることが目的である。

2. 研究手法

日本の英語教育にかけているものを見つけるため比較対象として母国語が英語でない中国と韓国のデータを用いた。インターネットに掲載されている情報や韓国の学生である友人へのインタビューを利用した。

≪実験1≫

3カ国のTOEFLのスコアを比べ、Reading Writing Listening Total の4つのカテゴリーにわけた。（Speakingの参照は見られなかった。）データからわかる情報を利用し、日本に足りていない能力を他2カ国との比較により導き出した。

≪実験2≫

3カ国それぞれの英語教育の実態を調べ、特徴からわかる情報を比べることによって日本の英語教育と他2カ国との相違点をまとめた。

3. 結果

≪実験1≫

すべての能力において、スコアが1番低いのは日本であることがわかった。
その中でも、日本はListeningのスコアが1番低いことが読み取れた。
中国、韓国のTotalのスコアは同じで3つの能力に比較的偏りが少ない。
また、どの国においてもListeningのスコアは3技能のうちいちばん低くなっていることも読み取れた。

	Writing	Reading	Listening	Total
日本	19	20	18	191
中国	22	22	20	215

韓国	21	22	21	215

≪実験2≫

日本の英語教育の特徴

2011年～
小学校での英語教育が義務化される。
授業は、文法や語彙の知識を増やす活動が多い。

中国の英語教育の特徴

2001年～
小学校での英語教育が義務化される
授業は、生徒同士の英語でのディベートや英語による発表がカリキュラムに含まれている。

韓国の英語教育の特徴

1997年～
小学校での英語教育が義務化される
授業は、発音（CDの音声や教師のリピートによる）を重視したものが多い。

4. 考察

各国の英語教育の特徴から日本の英語教育は、readingやwritingを重視した授業で、中国、韓国は、listening、speakingを重視した授業だった。中国、韓国に比べ、日本は英語教育が義務化された時期が遅いことが関係していることも考えられ、また、どの国も3技能の中でlisteningのスコアが1番低いことから英語を学ぶにおいてlistening力を向上させることが難しいと考えた。これらのことから、英語力の向上に必要な要素は、英語に触れる時期が早いこと、英語を実践する場が用意されていること、他人の英語を聞く機会が多いことだと考えた。英語に早くから触れることで英語に対する壁をなくし、教科書をただ読むだけでなく自分の意見を自分の英語で伝えることや、他人の意見を英語でききいれることが練習できるのが大切であると考えた。

5. 結論

日本の英語教育には、listeningとspeakingを重視した授業が少ないこと、そして多くの人が今の日本人の英語のレベルを知り、英語に早期から積極的に触れるようになることで今後の英語教育の改善に繋がると考える。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

文部科学省ホームページ　mext.go.jp/index.htm